

# わかあゆ

<http://www.nakagawa.ed.jp/esbato/>

- 特集・いじめゼツタイだめ！
- 馬頭小における取り組み
- 子どものサインを見逃さずに
- 全学年でいじめ防止の授業を実施
- 人権講話とカルタ取り大会
- 普通の教育を受けた天才指揮者

平成 24 年 11 月 30 日  
馬頭小学校  
TEL0287-92-2025  
FAX0287-92-2029

## いじめゼツタイだめ！ いじめゼロ運動展開 11月12日(月)～30日(金)



人権カルタ取り大会後の記念撮影です。

11月12日(月)から30日(金)まで、「いじめゼロ運動」が展開されました。他県においては、中学生が自ら命を絶つという痛ましい事件が発生しています。いじめは人権に関わる重大な問題であり、決して許されない行為です。いじめは、どの子どもにも、どの学校にも起こりうるものであり、いじめを把握した場合の速やかな対応やいじめが起こらない学校づくりが求められます。このような状況を受け、那珂川町の小中学校では、それぞれの学校において特定の期間を設けて、全校で「いじめゼロ運動」に取り組むことにしました。

今回の学校だよりでは、この「いじめゼロ運動」を特集します。また、運動期間中のみならず、いじめ未然防止をはじめとして人権を尊重する教育は、学校は勿論のこと、家庭や地域が一丸となって取り組むことが大切です。何か、お気づきのことがあれば、ご連絡、ご相談をお願いいたします。

### 子どものサインを見逃さずに

お子様のことで、気になることがあれば、学校にご相談ください。学校と家庭が連携して取り組むことが大切です。

- 衣類の汚れ、破れ、よくけがをしたりしている。
- 朝になると、頭痛、腹痛、吐き気などを訴える。
- 食欲がなくなったり、体重が減少したりする。
- 不審な電話や手紙が来たり、小遣いをたくさんほしがる。
- 部屋に閉じこもったり、ためいきをついたりする。
- 言葉づかいが荒くなったり、反抗したり八つ当たりしたりする。

### 馬頭小における取り組み

項目	期日	内容
①校長講話	11/12	いじめ防止について
②生活目標設定	11/12～30	週目標の設定と実践 校内放送での呼びかけ 朝の会・帰りの会の指導
③いじめ防止の授業	11/12～30	いじめに関する題材を道徳又は学級活動の授業で取り上げる。
④児童会の取り組み	11/12～30	スローガンを作り呼びかける。いじめに関する図書紹介。
⑤実態把握と対応	11/12～30	児童へのアンケートによる把握及び対応。保護者アンケート実施。
⑥いじめ防止啓発	11/12～30	学校ホームページや各種たよりで広報
⑦教育相談週間	11/12～30	心のアンケートと相談実施
⑧人権週間	11/27～30	人権教育講話、人権カルタ作りと大会、啓発映画、人権作文朗読

# 全学年でいじめ防止の授業を実施

～道徳・学級活動～



学年	授業	資料・題材名	内容
1	道徳	「くりのみ」 友情・信頼・助け合い	キツネさんとウサギさんの行動を通して、仲良く助け合うことの大切さを学びます。
2	〃	「こまのプレゼント」 友情・信頼・助け合い	学級の活動中に起きた出来事から友だちの良いところに目を向け互いに助け合うことの大切さについて学びます。
3	〃	「明るくなった友だち」 友情・信頼・助け合い	友だちがいなかったため何日も学校を休むようになった女の子を迎えに行く主人公の行動から友情や助け合いについて学びます。
4	〃	「言わないで」 友情・信頼・助け合い	一人でいじめに耐えてきた主人公の心の痛みを考え、いじめに気がついたら勇気を出して解決していくことの大切さを学びます。
5	学級活動	うれしく感じる言葉や行動	人をほめたり認めたりすることがよりよい人間関係をつくる上で大切であることを理解し、具体的な行動を考えます。
6	〃	うれしく感じる言葉や行動	人をほめたり認めたりすることがよりよい人間関係をつくる上で大切であることを理解し、具体的な行動を考えます。

運動期間中に、全学年において、子どもたちの意識や意欲を高めることを目的に、いじめ防止に関する授業を実施しました。1年生から4年生までは、「友情・信頼・助け合い」を題材とした道徳の授業、5・6年生は、よりよい人間関係を築くための「言葉や行動」を題材とした学級活動の授業でした。(写真上/6年学級活動・グループ話し合い)

## 人権講話とカルタ取り大会



11月27日(火)、人権擁護委員の藤田さん、渡邊さんにお越しいただきました。藤田委員さんからは、1年生から3年生までを対象に人権講話をしていただきました。「命を大切にしましょう。」「思いやりの心をもって、みんな仲良くしましょう。」と、大変わかりやすいお話をいただきました。講話の後は、「人権カルタ取り大会」です。みんなで考えた人権の「読み札」を先生が読み上げ、学級ごとの順番で絵札を取ります。とても楽しく、人権について考える機会となりました。

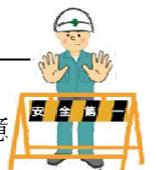
※「いじめゼロ運動」については、学校HPで連載していますので、ご覧下さい。

### 【お知らせ】

道路工事が行われますので、ご注意願います。

- ①293号バイパス・田町(ダンプの出入り)
- ②田町～橋本GS前(舗装工事)

※詳細は、配布した通知をご覧ください。



## 普通の教育を受けた天才指揮者 ロリン・マゼールの少年時代



NHKのクラシック番組にロリン・マゼールが登場した。既に年齢は82歳であるが、彼の動きの少ない指揮から、N響が美しい旋律、切れの良いリズムを次々と繰り出す。ほとんど衰えは感じられない。演奏した曲は、ワグナーの「指環」。この曲は、もともと、4日間かけて演奏され、トータルで10時間にも及ぶ長大なオペラである。それを、マゼール自身が70分余りの声楽抜きのオーケストラ曲に編曲した。彼自身の解説によると、編曲にあたっては、音符に指1本触れていないようだ。つまり、編曲でなく「編纂」なのだそうだ。なるほど、ワグナーの管弦楽の魅力は全く損なわれておらず、この10時間の長大なオペラを70分ほどで聞くことができるのだから、私のような初心者にはピッタリの曲かもしれない。

さて、このロリン・マゼールという指揮者は、これまで、ベルリンフィルやウィーンフィルなどの指揮者を務めた巨匠である。年齢は、カラヤンやカール・ベームよりかなり年下にもかかわらず、ほぼ同年代に活躍してきたのは、彼の年少からのキャリアにある。若干8歳でニューヨークフィルを指揮したり、歴代最年少でバイロイト音楽祭に招かれたり、その後も、世界の一流オーケストラを指揮し、常に注目を浴びてきた。

この天才指揮者にNHKアナウンサーが「少年時代、どのような教育を受けてきたのか？」と質問した。さぞかし英才教育を受けて来たのだろうとの予想に反し、その答えは、「親が、普通の教育を受けさせてくれたので、今の自分がある。」でした。他の子と同じ学校に通い、一緒に勉強も運動もしたのだそうだ。しかも、当時は、指揮者になろうとは考えておらず、小説家になりたかったそうだ。

小中学校の教育は、普通教育と言われ、色々な勉強をバランスよく行う。子どもの才能は、どのような方向に開花するか分からない。その蓄に、しっかりと栄養を蓄えることができるよう頑張れねばと考えさせられたインタビューであった。